

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年4月25日
【四半期会計期間】	第104期第2四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
【会社名】	昭和電工株式会社
【英訳名】	Showa Denko K.K.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森川 宏平
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03 (5470) 3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【電話番号】	03 (5470) 3384
【事務連絡者氏名】	財務・経理部 会計・税務グループリーダー 平井 謙司
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の一部の海外連結子会社が「定期預金（3ヵ月超）」を保有しておりましたが、連結キャッシュ・フロー計算書の勘定科目（現金及び現金同等物と定期預金による預入・払戻）で誤りが判明したため、その他重要性の観点から修正を行わなかった事項の修正を含め訂正を行います。

これらの訂正により、当社が平成24年8月8日に提出いたしました第104期第2四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所につき、XBRLデータの訂正を行いましたので、併せて訂正後のXBRL形式のデータ一式（表示情報ファイルを含む）を関連書類として提出します。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の概況

(2) セグメントの状況

(4) キャッシュ・フローの状況

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 四半期連結損益計算書

第2 四半期連結累計期間

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(セグメント情報等)

3 【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第103期 第2四半期連結 累計期間	第104期 第2四半期連結 累計期間	第103期
会計期間	自平成23年 1月1日 至平成23年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 12月31日
売上高(百万円)	416,527	<u>352,313</u>	854,158
(中略)			
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	13,906	2,466	69,437
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	<u>△19,168</u>	<u>△19,622</u>	<u>△38,672</u>
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△1,355	3,335	△17,295
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	<u>36,854</u>	42,198	<u>55,026</u>

(後略)

(訂正後)

回次	第103期 第2四半期連結 累計期間	第104期 第2四半期連結 累計期間	第103期
会計期間	自平成23年 1月1日 至平成23年 6月30日	自平成24年 1月1日 至平成24年 6月30日	自平成23年 1月1日 至平成23年 12月31日
売上高(百万円)	416,527	<u>352,293</u>	854,158
(中略)			
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	13,906	2,466	69,437
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	<u>△19,125</u>	<u>△18,807</u>	<u>△38,671</u>
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	△1,355	3,335	△17,295
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	<u>36,047</u>	42,198	<u>54,257</u>

(後略)

第2【事業の状況】

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(1)業績の概況

(中略)

第2四半期連結累計期間の連結営業成績については、売上高はエレクトロニクスセグメントはハードディスクの数量増により増収となったものの、設備不具合があった石油化学セグメントの減収が大きく3,523億13百万円(前年同四半期連結累計期間比15.4%減)となり、営業利益は160億19百万円(同27.5%減)、経常利益は144億23百万円(同20.1%減)となった。四半期純利益は前年同四半期連結累計期間に計上した東日本大震災の影響による特別損失の計上がなくなったこともあり78億84百万円(同0.9%増)となった。

(2)セグメントの状況

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間の液化アンモニアの生産は前年同四半期連結累計期間並みとなった。

機能性高分子事業は小幅に減収となり、産業ガス事業は減収となった。基礎化学品事業は液化アンモニアは増収となり、合成ゴム「ショウブレン®」は前年同四半期連結累計期間並みの売上高となったが、アクリロニトリルは需給緩和を受けた減産に加え、市況下落の影響を受け減収となり、総じて減収となった。情報電子化学品事業は半導体・液晶業界の生産調整の影響が残り前年同四半期連結累計期間並みの売上高となった。

この結果、当セグメントの売上高は627億17百万円(前年同四半期連結累計期間比5.4%減)となり、営業損益は原燃料価格の上昇もあり2億11百万円の損失(同30億56百万円減益)となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間のコンデンサー用高純度箔の生産は前年同四半期連結累計期間に比べ減少した。

圧延品事業はコンデンサー用高純度箔が顧客業界の生産調整の影響を受け減収となり、押出・機能材事業はレーザービームプリンター用シリンドラーの出荷減等により減収となった。ショウティック事業は出荷増により増収となり、アルミニウム缶は小幅に増収となった。なお、熱交換器事業は自動車空調用事業を本年1月に(株)ケーヒンへ譲渡したため大幅な減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は475億82百万円(前年同四半期連結累計期間比22.9%減)となり、営業利益は11億34百万円(同68.6%減)となった。

(中略)

(4)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少、その他流動負債の減少等により、前年同四半期連結累計期間に比べ114億40百万円の収入減少となり、24億66百万円の収入となった。

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、事業譲渡による収入は増加したものの、有形固定資産の取得による支出の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ4億54百万円の支出増加となり、196億22百万円の支出となった。

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ46億89百万円の収入増加となり、33億35百万円の収入となった。

この結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ128億28百万円減少し、421億98百万円となった。

(後略)

(訂正後)

(1)業績の概況

(中略)

第2四半期連結累計期間の連結営業成績については、売上高はエレクトロニクスセグメントはハードディスクの数量増により増収となったものの、設備不具合があった石油化学セグメントの減収が大きく3,522億93百万円(前年同四半期連結累計期間比15.4%減)となり、営業利益は160億19百万円(同27.5%減)、経常利益は144億23百万円(同20.1%減)となった。四半期純利益は前年同四半期連結累計期間に計上した東日本大震災の影響による特別損失の計上がなくなったこともあり78億84百万円(同0.9%増)となった。

(2)セグメントの状況

(中略)

(化学品)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間の液化アンモニアの生産は前年同四半期連結累計期間並みとなった。

機能性高分子事業は小幅に減収となり、産業ガス事業は減収となった。基礎化学品事業は液化アンモニアは増収となり、合成ゴム「ショウブレン®」は前年同四半期連結累計期間並みの売上高となったが、アクリロニトリルは需給緩和を受けた減産に加え、市況下落の影響を受け減収となり、総じて減収となった。情報電子化学品事業は半導体・液晶業界の生産調整の影響が残り前年同四半期連結累計期間並みの売上高となった。

この結果、当セグメントの売上高は627億2百万円(前年同四半期連結累計期間比5.5%減)となり、営業損益は原料価格の上昇もあり2億11百万円の損失(同30億56百万円減益)となった。

(中略)

(アルミニウム)

当セグメントでは、当第2四半期連結累計期間のコンデンサー用高純度箔の生産は前年同四半期連結累計期間に比べ減少した。

圧延品事業はコンデンサー用高純度箔が顧客業界の生産調整の影響を受け減収となり、押出・機能材事業はレーザービームプリンター用シリンダーの出荷減等により減収となった。ショウティック事業は出荷増により増収となり、アルミニウム缶は小幅に増収となった。なお、熱交換器事業は自動車空調用事業を本年1月に(株)ケーヒンへ譲渡したため大幅な減収となった。

この結果、当セグメントの売上高は475億77百万円(前年同四半期連結累計期間比22.9%減)となり、営業利益は11億34百万円(同68.6%減)となった。

(中略)

(4)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の減少、その他流動負債の減少等により、前年同四半期連結累計期間に比べ114億40百万円の収入減少となり、24億66百万円の収入となった。

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、事業譲渡による収入の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ3億18百万円の支出減少となり、188億7百万円の支出となった。

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、有利子負債の増加等により、前年同四半期連結累計期間に比べ46億89百万円の収入増加となり、33億35百万円の収入となった。

この結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、為替変動の影響等も含め、前連結会計年度末に比べ120億59百万円減少し、421億98百万円となった。

(後略)

第4【経理の状況】

1【四半期連結財務諸表】

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	416,527	<u>352,313</u>
売上原価	350,479	<u>295,446</u>
売上総利益	66,048	56,867

(後略)

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	416,527	<u>352,293</u>
売上原価	350,479	<u>295,426</u>
売上総利益	66,048	56,867

(後略)

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△19,168</u>	<u>△19,622</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△27</u>	<u>993</u>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>△6,644</u>	<u>△12,828</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>43,459</u>	<u>55,026</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	35	—
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 <u>36,854</u>	※1 <u>42,198</u>

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)
(前略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	<u>△812</u>	<u>—</u>
定期預金の払戻による収入	<u>854</u>	<u>814</u>
(中略)		
投資活動によるキャッシュ・フロー	<u>△19,125</u>	<u>△18,807</u>
(中略)		
現金及び現金同等物に係る換算差額	<u>△28</u>	<u>947</u>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	<u>△6,602</u>	<u>△12,059</u>
現金及び現金同等物の期首残高	<u>42,610</u>	<u>54,257</u>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	35	—
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	4	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 <u>36,047</u>	※1 <u>42,198</u>

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

(訂正前)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)												
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">37,128百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を 超える定期預金</td> <td style="text-align: right;"><u>△274</u></td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;"><u>36,854</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	37,128百万円	預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△274</u>	現金及び現金同等物	<u>36,854</u>	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年6月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">42,413百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を 超える定期預金</td> <td style="text-align: right;"><u>△214</u></td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">42,198</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	42,413百万円	預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△214</u>	現金及び現金同等物	42,198
現金及び預金勘定	37,128百万円												
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△274</u>												
現金及び現金同等物	<u>36,854</u>												
現金及び預金勘定	42,413百万円												
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△214</u>												
現金及び現金同等物	42,198												

(訂正後)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)												
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">37,128百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を 超える定期預金</td> <td style="text-align: right;"><u>△1,080</u></td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;"><u>36,047</u></td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	37,128百万円	預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△1,080</u>	現金及び現金同等物	<u>36,047</u>	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年6月30日現在)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">現金及び預金勘定</td> <td style="text-align: right;">42,413百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3ヶ月を 超える定期預金</td> <td style="text-align: right;"><u>△214</u></td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td style="text-align: right;">42,198</td> </tr> </table>	現金及び預金勘定	42,413百万円	預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△214</u>	現金及び現金同等物	42,198
現金及び預金勘定	37,128百万円												
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△1,080</u>												
現金及び現金同等物	<u>36,047</u>												
現金及び預金勘定	42,413百万円												
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	<u>△214</u>												
現金及び現金同等物	42,198												

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

(前略)

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	70,284	<u>58,147</u>	84,349	28,654	<u>45,295</u>	65,584	<u>352,313</u>	—	<u>352,313</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,311	4,570	1,060	4,261	2,287	3,195	17,684	△17,684	—
計	72,595	<u>62,717</u>	85,409	32,915	<u>47,582</u>	68,780	<u>369,997</u>	△17,684	<u>352,313</u>

(後略)

(訂正後)

(前略)

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	石油化学	化学品	エレクト ロニクス	無機	アルミ ニウム	その他	計		
売上高									
外部顧客への 売上高	70,284	<u>58,132</u>	84,349	28,654	<u>45,290</u>	65,584	<u>352,293</u>	—	<u>352,293</u>
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	2,311	4,570	1,060	4,261	2,287	3,195	17,684	△17,684	—
計	72,595	<u>62,702</u>	85,409	32,915	<u>47,577</u>	68,780	<u>369,977</u>	△17,684	<u>352,293</u>

(後略)

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年4月25日
【会社名】	昭和電工株式会社
【英訳名】	Showa Denko K.K.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 森川 宏平
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 執行役員 加藤 俊晴
【本店の所在の場所】	東京都港区芝大門一丁目13番9号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長森川宏平及び当社最高財務責任者加藤俊晴は、当社の第104期第2四半期（自平成24年4月1日至平成24年6月30日）の四半期報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。